

ちいさな証

私は山に向かって目を上げる

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会会員



「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」 詩篇 121篇 1～2節

主の御名を賛美します。

私たちクリスチャンにとって、どのような境遇に置かれていても、この方を見上げることでできることは最大の恵みです。この世で歩む限り、悩み苦しみがあり、災難に遭遇したり、病に倒れることがあります。そして究極的には誰もが肉体の死を迎えます。クリスチャンだからといって、災いが少ないとか、病気はしないということは無いです。しかし、クリスチャンの特権は、そのような状況下にあっても信頼して見上げることでできるお方がいらっしゃるということです。そして都のぼりのこの歌は、私たちにとっては、御国への歌ということです。

昨年春のイスラエル旅行で、イスラエルの民が都のぼりをしたエリコからエルサレムへの道を（今は高速道路）途中下車をして幾重にも広がる荒野を展望できたことは貴重でした。

さてごく最近、例えるならばこの荒野を歩くような体験をしました。私は副鼻腔炎を悪化させて熱と痛みとうなされて2か月間近く、病院や自宅でのベットの生活を強いられました。改善がみえない時は不安に陥るものです。荒涼とした山を越えたら次の山が現れるといった荒野の状況でした。

大いに励まされたのは、多くの兄弟姉妹の祈りと、Skypeでの早朝デボーション仲間と分かち合う聖書のみことばから、「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」という思いを与え続けられたことです。この恵みに感謝しました。今回は幸いにして回復しましたが、いつの日か必ず最後には回復しないケガか病気を迎えることとなります。

この時も、「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」と賛美できたら幸いです。「助け」とは、病やケガから回復してこの世に留まる幸せではありません。イエスキリストによる救いの約束です。それによって既に保証してくださっている山（みくに）への道です。今回の私の病は、これによって平安、さらには感謝の喜びを与えられたことが一番の恵みでした。

二番目の恵みは、神様はこれからまだしばらくこの世での使命を続けるため、私たちの身体を本当に心配してくださっていることを示された事です。

残念ながら人間の罪深さゆえに、神様が与えてくださった本来の動植物を、商業利益のために不純なものへと加工することが多くなされてきました。そして、私たちはそれに何が入っているかもわからずに食べています。長年の蓄積で、その不純物が免疫力や治癒力を減退させて現代の病気を増やす結果になっています。主は私たちの弱ったからだを憐れんでくださり、神様が初めに用意した自然のものから栄養をとって、体を浄化、回復するようにと知恵をもって、私にそして周辺に教えてくださいました。

具体的にはローカルで話題の「人參ジュース」なのですが、あまり詳しく熱を入れて書くと笑われそうなのでここでは省略しますが、神様は、これからの私たちの身体のためにも、知恵をもって食生活の転換をすることを教えてくださいました。

病を通して個人的に与えられた二つの恵みをお分かちさせていただきました。神様は予期もしなかった事柄を通して栄光を現わされる方です。事の終始を振り返れば感謝しか残りません。このただ中であっても闘病生活をされている兄弟姉妹のことを覚えます。主が、必ずや人知を超えた恵みの業をもって栄光を現してください（さっている）と信じてお祈りいたします。



妻しのぶとイスラエルにて



ユダの荒野